

令和4年度第4回長井市振興審議会 議事録

開催日時：令和5年3月16日（木） 15時30分～17時00分

開催場所：長井市役所 庁議室

出席者：28名（委員14名、事務局14名）

■振興審議会委員 遠藤倫夫委員、渡部政明委員、加藤眞佐夫委員、齋藤裕之委員、蒲生直樹委員、井上榮子委員、梅村律子委員、土屋智代委員、長沼真知子委員、牛澤栄一委員、上村正巳委員、青木與惣右エ門委員、下平裕之委員、鷺見孝委員
（出席14名、欠席4名）

■事務局 齋藤環樹副市長、土屋正人教育長、竹田利弘政策推進監、青木邦博技監、新野弘明総務参事、梅津義徳厚生参事、赤間茂樹産業参事、佐藤久財政課長、佐藤秀人教育総務課長
総合政策課 渡邊恵子課長、佐々木真一総合戦略室長、安部惇士主任、四釜主事、本間

傍聴者：無し

【次第】

- 1 開会
- 2 長井市振興審議会委員の任命
- 3 あいさつ
- 4 報告
（1）第六次総合計画の検討状況報告（資料1）
（2）まちづくりワークショップ等実施報告（資料2）
- 5 協議
（1）第六次総合計画の将来像（案）について（資料3）
（2）今後の進め方について（資料4、参考資料1～3）
- 6 その他
- 7 閉会

【議事録】

- 1 開会
- 2 長井市振興審議会委員の任命

令和5年1月1日より長井市青年会議所理事長に着任された牛澤委員に委嘱状交付

- 3 あいさつ

○齋藤環樹 副市長

振興審議会の委員の皆様には、日頃から当市のまちづくりについて、御理解と御協力を賜り、感謝申し上げます。今回、新たに牛澤栄一委員を新たに振興審議会委員に委嘱申し上げます。

令和4年度、第六次総合計画の策定にあたって、全5回の市民まちづくりワークショップ、各地区3回の地区まちづくりワークショップを開催し、市民の方々から多くのご意見をいただきました。また、先月には従来の少年議会に代わり、「長井の未来を育む少年会議」が開催され、長井市内の中学生・高校生が社会課題を学び、学生ならではの柔軟なアイデアもいただきました。アイデアは各課と共有し、今後の事業に生かしてまいりたいと考えています。

さて、前回の振興審議会では、令和4年度の市民アンケートの結果や第六次総合計画の骨格(案)について報告させていただいた。今回の振興審議会では、これまでの振興審議会委員の方々からいただいたご意見や、市民ワークショップ・地区ワークショップ等で市民の皆様からいただいたご意見を踏まえて、第六次総合計画の将来像の素案についてご提案させていただく。ぜひ活発なご意見を賜るようお願い申し上げます。

○下平裕之 会長

前回の振興審議会を欠席して申し訳ない。

本日は、第六次総合計画の将来像ということで、総合計画は基本構想、基本計画、実施計画、これに基づいて具体的に様々な政策を実施していく。ぜひ皆様からのご意見いただきながら、将来像を決めていきたいのでよろしくお願ひしたい。

4 報 告 [座長=下平会長]

- (1) 第六次総合計画の検討状況報告
説明に先立って、事務局よりこの会議での到達目標について説明。
その後、資料1に沿って事務局から説明。

→質問等なし

- (2) まちづくりワークショップ等実施報告
資料2に沿って、事務局から説明。

(会長)

ワークショップの全体的な感想として、参加された市民の皆さんは、長井市あるいは地域について真剣に取り組んでいたのが印象に残った。今回学生も参加し、初めは学生も長井市に来るのが初めてで心配だったが、市民の方と意見交換しながら、外部の若者の意見として話し合いの助けになったのではと思う。現在、大学の方でも報告書を作成中で、市や各地区に配布予定なので機会があればご覧いただきたい。

(委員)

資料2のP2について、肯定的な意見と否定的な意見ということで記載されている。否定的な意見に「市町村合併」が入っている理由をお聞かせ願ひたい。平成の大合併以来、市町村合併は聞かないが、少子化において市町村合併は必須なのかなと私は思っている。

(事務局)

グループごとの議論であり、事務局が入っていたわけではないので、どういった文脈でこの意見が出てきたかは不明。グループワークで未来の予想をした際、ネガティブな言葉の中に記載されていた。その理由までは把握していないのでお答えできない。

(会長)

人口減少の中で市町村合併がさらに進むことが心配だということで、否定の意味ではなかった。

5 協 議

- (1) 第六次総合計画の将来像(案)について
資料3に沿って、事務局から説明。

(委員)

フレーズについて、①は意見の多かった要素を全て入れたということだが、私はパッと見たときに一番じっくりくると感じる。やはり、いろんな要素がすべて入っているからだと思う。①が一番

しっかりと伝わってくる。

(委員)

私たちはまちづくりの部分で地域活性化事業や青少年育成事業などの活動をしている。個人的には活動していく中で、自分のモチベーションになり、幸せを実感するのは子供たちの笑顔や頑張っている姿。そこから、私たち大人が子どもたちにつなげていかななくてはいけないなという気持ちになっている。

私自身の今年度のテーマは「笑顔」だったが、シンプルだがパワーワードだと思っている。笑顔があれば良いまちづくりができるので、そういった意味でフレーズの中に「笑顔で暮らせるまち」が記載されているのが良いと思う。子どもから大人までみんなが見て分かるようなフレーズが大切だと思う。これからもまちづくりに関して、私たちの団体と一緒に活動を進めていければと思っているのでよろしくお願ひしたい。

(委員)

この前から分からなかったが、この将来像というのは、第五次総合計画の中の「みんなで創る しあわせに暮らせるまち 長井」に相当するものと考えているということでしょうか。であれば、第六次総合計画のサブテーマのようなものになるのだろうと思う。

「将来像」と言う場合は、例えば資料2のP5のキャッチコピーであれば将来像と言われても頷ける気がする。それと比べると、今回のこれはあまりに抽象すぎて、「長井というのはどんなまちか」を表すものではない。第六次総合計画のサブテーマとして考えているのであれば良いのだろうと思う。そう考えてよいのであるとすれば申し上げる。

①では、「ずっと」とあるがこれは必要か。その前に、サブテーマであるにしても今後10年間の最も大きな課題に対処するための計画なので、それに関わったものでなければおかしいのではないか。第六次総合計画の最も大きな課題は「人口減少にどう対処していくか」ということなのだろうと思う。10年後の未来予測の中でもほとんど人口減少に関わることが記載されている。これにどう対処していくかが見えるものでありたいと思う。

そのことを踏まえると、③の「住み続けたい」あたりなのかなと思う。「市外から長井に来て住みたい」「今いる子どもたちもこの長井に住み続けたい」そういうことが表現されたものがあると思う。ただし、「住み続けたい」は、将来にわたってのことなので「いつまでも」や「ずっと」はいらないと思う。「住み続けたい 笑顔が輝くまち 長井」でいいのではないか。「住み続けたい」の中に「いつまでも」も「ずっと」も意味が込められていると思う。

最初に言ったように、第六次総合計画のサブテーマということであればだが、長井はどんなまちかと言われれば「水と緑と花のまち 長井」なのだろうと思う。

(委員)

まずは単純に質問させていただく。資料3のP1で、「全ての人を包み込む【インクルージョン】」という言葉を使っており、これは包括的や包含的という意味だと思うが、P2では「多様性(インクルージョン)」となっている。「多様性」は「インクルージョン」よりも「ダイバーシティ」の方が合う気がする。最初に包括的なこと指していて、どうしてこのようになったのかという単純な質問が一つ。

「インクルーシブ教育」について、10年くらい前に学校教育の中で「ノーマライゼーション」という言葉があった。障がい者も健常者も年をとった人もみんな一緒に生活できるという意味だったと思うが、将来的にまた言葉の名前が変わるのではないかと思うので、もう少しわかりやすくしたほうがよいのではないか。

色々なものを盛りだくさんにしており、今回色々ご意見があったが、①をもう少し単純にすっきりとした形でやったほうが良いのではないかと思う。

(事務局)

ご指摘の通り、多様性はダイバーシティが適切だと思うが、意味合いとしてインクルージョン(包括的)も含めた上でこういう言葉を使いたかったという意図があった。どちらの意味も言葉に含めた将来像にしていきたい。資料として説明が足りなかった。

(委員)

インクルーシブ教育が分からない人はたくさんいると思う。もう少し分かりやすく書いた方がいいと思う。

(会長)

そういった部分ももう少し分かりやすくするため検討が必要。

(委員)

大変貴重なご意見をいただいた。10年後の予想を見て非常に心情が暗くなったが、企業は「社員が3人辞めた」「5人辞めた」「山形行った」「仙台行った」「東京行った」などが今の現実。私は「しあわせに暮らせるまち長井」でいいのだが、そうするために企業がどうするか。企業として、休日を増やさないといけない、給与も上げないといけない、労働時間云々というのがある。それが現実的に目の前にあるので、将来像(案)として言葉がそろった素晴らしいものがあるが、読めば読むほど自分たちに責任が重くのしかかってくる。私はどれが選ばれても良いと思うが、具体的に本当に実行していくのがものすごく大事なので、そのところに力をおいてほしいと思う。

(委員)

私の住んでいる致芳地区には、色々な小河川・大河川がある。資料3のP1の総務部門の取り組みの方向性に「災害に強いまちづくり」とあり、P1下部の未来予測・望ましい姿に危機管理の記載があって、こういうところが大事な気がする。委員が言われたように、細かいところを実施する段階での将来像の③に続くものが絶対的に必要になってくるのかなと思う。やはり、災害が無いと住み続けたいという気持ちになるわけなので、その辺に力を入れてほしい。

(委員)

資料3のP1の最重要課題がこれからの長井市に必要な取り組みなのだろうと理解した。P3の4つの案の中で、3つの最重要課題とどれがつながるか考えていたが、どれもつながらない。つながって考えていいのか、それともまた別の進め方として将来像を考えていいのか、この将来像のスローガンとっていいのか、進め方とっていいのか、この位置づけが資料3のP1の最重要課題と直結しないなという気がする。

おそらく長井の将来像を達成するために、幸せを実感してみんなで創りましょうというまちの姿を共有する言葉だと思う。そうしたところで何かもう少し具体的なイメージが言葉の中にあらわれるといいなと思っている。サブタイトルが必要ならばそれも一つの手だと思う。

また、視点として資料3のP3の右側に5点挙げられているが、その中で一番網羅しているのは①だが、少し長いと感じる。もう少しすっきりした形でいくといいのではないかなと思う。この4つのなかでは全て網羅しているという点で①が良いと思う。

(会長)

最重要課題と将来像の繋がりということで、そのあたりの繋がりについてはどのように考えているか。

(事務局)

将来像については、市の施策全体を網羅するようなイメージで、P1の最重要課題は其中で何を重点的にやっていくかを表している。最重要課題3つだけが将来像に関わってくるわけではないというところで、意味合いが違っている。

(委員)

将来像を考えると、一番は健康でなくてはならないのだろうと思う。心の健康、体の健康といったものが入っていれば良いと思う。将来像の案の中で、①が全部網羅しているということだが、その中で、「笑顔」に「健康」を入れていただければ非常に良い。「しあわせ実感」については、目標なのかなと思った。

まずは、P3の適合一覧から見れば①がいいのかなと思っている。ここにも書いてあるように、五次総に似通っていてまた引き続きやるのかと思った。もう少しすっきりしたパターンの方が良い

のではと思った。

(委員)

長井市の主に取り組んでいきたい課題が資料3のP1にあり、それを踏まえたサブテーマとしての将来像があると思う。まずP1の取り組むべき最重要課題については、やはりこの後の10年は若者の定住、Uターンが一番重要なことである。第五次総合計画期間の取組の総括を見ても、若者、特に女性の流出人口にどう対応するか、移住・交流人口などが最重要課題であった。健康、住まい、安全、仕事などの様々な施策を充実させ、市民に「幸せは増しましたか」という指標達成度のアンケートを取ることができる。人口の問題に正面から向き合って、毎年それが達成されているか確認していくという、重要な10年間になると思う。

一つ目の質問で、資料3のP1の取り組むべき重要課題「安心を高める」の文教部門のところについて、「学校施設の長寿命化」は当然しなくてはいけないことだと思うが、この意味するところを教えてください。むしろ、ITの見守り端末などの長井市独自のデジタルを活かした安全提供や安全教育など、何か長井市らしいプラス面の内容でもいいのではないかと。

二つ目の質問で、総務部門の「SDGsの推進」について、SDGsの開発目標は幅広いので、むしろ取り組むべき重要課題の全体にSDGsの推進を位置づけ、総務部門のところは「多様性や男女共同参画の理解促進」などの方が良いと思う。

将来像については、他の委員と同意見で、これからの課題を考えると「住み続けたい」や「ずっと住みたい」などが適当だと思う。子どもたちにも「住み続けたいまち」を目指していることが伝わった方が良く、県外からの移住を考えている方向けにも「住み続けたい」という言葉は外さないで入れた方がいいと思う。そうすると、キャッチコピー案は①か③だと思う。①の場合は、五次総の発展形として、五次総で「しあわせに暮らせるまち」を目指してきたが、六次総は「しあわせ実感」にステップアップしますというもので、「しあわせ」は色々な指標があるので確かめることができる。「みんなで創る」は、外国籍の方や男女共同参画なども含めて、多様性も意味している。「ずっと笑顔で暮らせるまち」はwell-beingの幸せにも重なっているので、「住み続けたいまち 長井」という言葉を入れ替えた方が、課題を踏まえていてみんなにも分かりやすい。

(事務局)

SDGsに関しては確かに国連で定めた17の開発目標ということで、これは一部の分野だけではなく、長井市全体にかかわるような言葉。総務部門にいった意図としては、市全体を連携させる部門ということで、SDGsの内容を総務部門に入れた。委員がおっしゃったように総務部門で取り組むべきことは「男女共同参画」のように個別具体的なことを挙げた方が確かに分かりやすいと思うので、この辺は今後検討させていただきたい。

(事務局)

取り組みの方向性の「安心を高める」で、「学校施設の長寿命化」を挙げさせていただいた。長井市内の学校施設で一番新しい伊佐沢小学校でも築30年以上が経過している状況で、老朽化が大きな課題となっており、令和3年の3月に長井市の小中学校施設の長寿命化計画を策定した。一斉に改築をするのは費用の面からも大きな課題になっているということで、取りあげさせていただいた。

(委員)

今の委員の質問は、施設の維持は当たり前のことで、長寿命化をここに盛り込むのはいかがなものか。もっと違うことの方がいいのではというご指摘だったと思う。

(会長)

その辺を次回まで検討していただきたいと思う。

(委員)

まず資料3のP1について、特に市全体で取り組むべき最重要課題の③「まちなかのにぎわいづくり」は当然だと思う。産業部門の項目に「地域資源の観光利用促進」と「まちなかのにぎわい創出」というのが併記されているが、先日研修会を行い、講師が田中元子さんというまちづくりのプロの方で、午前中一緒に駅前通りと本町通りを歩いて色々意見をお聞きした。今の本町通りは五次

総の結果だと思うが、「ベンチがあるのは素晴らしい、しかし、ベンチが店に隣接しており、一般の人がお店の所有物だと思うので座りづらい。せっかく設置したのに座りづらいし、それが点在しているので存在感が薄く、賑わいをつくるものにはなっていない。それが残念ですね。」という意見だった。また、地元の皆さん、私も5年住んでいるのでそう刷り込まれているが、長井は緑が豊かということが念頭にある。しかし、本町通りを歩いてどこにも緑がない。観光による地域づくりをしようというときに、外から来た人が見る本町通りはものすごく寒いまち。逆に、緑がどこにあるのか外から来た人には分からず、すごく残念。「駐車場の通りに面したところに植栽を植える」など考えるだけで大きく変わる。第5次総合計画では、緑が忘れられ、人が集いやすいまちづくりがどこかにいってしまい都会的なまちになりつつあるが、これでいいのか。長井らしさという部分、「住みやすい」や「人が幸せ」を意識するのであれば、方向がずれていっているのではないかという危惧を感じた。第六次総合計画で「まちなかのにぎわいづくり」を具体的に落とし込んでいくときに、何か人間性というところが盛り込まれることを期待する。

資料3の将来像の考え方については、先ほどと同じ意見で、五次総のフレーズを市民は誰も覚えていない。有識者の少数の方、市役所の行政の一部の方だけが覚えている。逆にそのようなフレーズをつくっても意味があるのか。先週観光振興計画の委員会があり、委員もおっしゃったが、「水と緑と花のまち 長井」を市民は小さい時から刷り込まれている。それを市民にも外部に向けても発信しているし、言い続けているのが軽んじられて、新しい言葉が出されているが、これになんの意味があるのか。「水と緑と花の長井」を言い続けるべきだし、それが嫌であれば、先ほどの提案のフレーズに変えればいい。そこは覚悟を持って市民と外部に発信するというフレーズでないという意味がない。長井市の10年後という意味では、資料2のP5、委員からご指摘のあった長井らしいフレーズの方がよっぽど分かりやすい。市民も納得するし、外から来る人も「そうね」と言うと思う。将来像というところは人に伝える意味があるのでは。我々内部だけでやっている意味はちょっと薄いと思う。

(委員)

最初にお聞きしたいことが一つある。資料3のP2～3を眺めていて、普通幸せは漢字で書くと思う。ひらがなで「しあわせ」は印象に残るのだが、ひらがなにしたのは何か意味はあるのかお聞きしたい。

どんなフレーズが良いかということに関しては、委員の意見に同意。前回の最後に言ったのだが、他の委員がおっしゃるように、「水と緑と花の長井」が刷り込まれており、誰にも教えられていないがみんな知っているということ。これは目標でもあり継続しなければいけないということでもある。「水と緑と花の長井」ということについては、色々なこれをこうしたい、これを残したいという思いが詰められている言葉だと思うし、アピールにもなる言葉だと思うので残したいと思う。資料3のP2に「水と緑と花の長井～●●～」と書いてあるが、もし●●に何かを入れるとすれば私の考えでは、将来像の①だと思う。しかし、「しあわせ実感 みんなで創る ずっと笑顔で暮らせるまち長井」は長いと思う。実感というのは、あくまで主観の問題だと思うので、誰が実感するのか、自分で実感するのか、どのように実感するのか、「実感」という言葉はいらぬのではないかと思う。どのようにするか考えたが、子どもでも分かるように、「みんなしあわせ ずっと笑顔」というフレーズを、「水と緑と花の長井」に続けて、「水と緑と花の長井～みんなしあわせ ずっと笑顔～」と入れると、多様性、協働と持続可能としあわせが全部入るのではないか、覚えやすいのではないかなと思う。自分で考えて紙に書いて出せと言われたらそのように書いて出そうかなと思った。

(事務局)

「しあわせ」の表記について、五次総のスローガンにも「みんなで創る しあわせに暮らせるまち 長井」と、ひらがなで「しあわせ」と書いている。どうしてひらがなにしたいかという、細かい議事録を読んだわけではないので経緯は分からないが、「しあわせ」とひらがなで書いたほうが柔らかいイメージがあることと、またお子様でも読めること、漢字で書くと「幸福」「不幸」でなんとなく堅いイメージがあるため、ひらがなで「しあわせ」と表記したと考えている。

前回の会議でも、市民に浸透している「水と緑と花の長井」というキャッチコピーがいいのではないかという意見をいただいた。前段で事務局からも説明させていただいたが、前回の第五次総合計画の冊子にも「水と緑と花のまち 山形県長井市」と書いてある。なぜこのように市民に浸透しているか考えると、施政方針など市で発行する多くのものに「水と緑と花のまち」というフレーズ

が入っている。それで市民の皆さんの目に触れる機会が多いため浸透したのではないかと考えている。このフレーズについては10年単位の総合計画の枠を超えた、半永久的な長井市の別次元のキャッチフレーズとして捉えたほうが良いのではないかという考え方で、今回はキャッチコピーの中にはあえて使わずに別の言葉ということで考えた。委員からもあったように、五次総のキャッチコピーが市民に浸透しないのも、長井市の発信力の不足というのもあると思う。市民一人一人のものとなるように情報発信の方法を考えなくてはならない。

(委員)

今、市の発信力が弱いのではないかということだったが、私はそうではなく、いろんなことを発信しすぎるからだと思う。一つに統一した方が良いのではないか。

(委員)

やはり、全部長く分かりにくいと感じた。一つの中に色んなものを盛り込みたいのは分かるが、もっと分かりやすくしないと忘れられてしまう。ちなみに「水と緑と花の長井」というのは、私が30年前に長井に来た時に主人の母から「ここはこういうまちよ」と紹介された。結婚してここに来たので、私も半分移住者みたいなもの。どこだかは忘れたが、まちの中に立て看板があって、確かにその通りなのだと思った。そういうことを考えると、「水と緑と花の長井」はとても分かりやすかった。

先ほどあったようにキャッチコピーではなく、ワンランク上げて永久に「水と緑と花の長井」をアピールしていく方がいいと思う。将来像については、冊子に書けるような、こんなにだらだら長いのではなく、書けるような短いものを入れていただきたい。「実感」や「創る」などの動詞をなるべく削って、みんなが口にできるようなフレーズに落とし込んでいった方が心に残り、目標として、将来像として分かりやすい。細かく言わなくてもみんながそれに対して自分なりに考えていける余地を残した方が良いのではないかと思った。その点で、委員が言ったように「しあわせ」と「ずっと笑顔」を取り出して、それをポイントに持ってくると分かりやすいのではないかと思う。

(委員)

「水と緑と花の長井」というのは長井のキャッチコピーの別枠として、長井のアピールに使ってほしい。将来像についての意見では、①は要素適合一覧で丸が多く、「みんなで創る」は一回五次総で使っている言葉であり、「創る」がつくって終わるのかなというイメージもあるので、「創る」よりはワークショップで出てきている、「紡ぐ」という言葉の方がつないでいく進行形になっているのかなと思う。

(会長)

この将来像は本来市民全員が、「水と緑と花の長井」と同様に共有すべきもの。先ほどどなたかおっしゃったが、説明しやすいもの、市民がそれを聞いて、こういう内容でこのような計画で、このような長井を目指すということを皆さんに実感してもらおう。先ほど皆さんから、「動詞を削る」「ここにあるワードをまとめる」などの意見をいただいたが、重要な指摘だと感じた。これから実施計画などに落とし込んでいくと思うが、まずは市民の方にこの将来像を見せれば、市が何を目指していくかが分かる、更に市民が話すことによって市外の人も長井市がこんな事を目指しているということが見える、そのようなキャッチコピー・将来像をご検討いただければと思う。

何か他にご意見あれば個別に事務局に問い合わせいただきたい。

(2) 今後の進め方について

資料4に沿って、事務局から説明。

→質問・意見等なし

6 その他

特になし

7 閉 会